



桐生ロータリークラブ週報

2009年

国際ロータリー第2840地区 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ



Make Dreams Real

R.I 会長 李 東 建 (D. K. Lee)

善意というものがいいなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前 原 勝 樹

会長 武田 博之 幹事 松島 宏明

クラブ会報・広報委員会 大友 一之・竹内 康雄・木村 滋洸・肥塚 俊成

6月8日号

第2696回例会

(6月1日(月) 第1例会)

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 点鐘 | 7. 結婚・誕生日祝 |
| 2. 国歌齊唱 | 8. 乾杯 |
| 3. 桐生市歌齊唱 | 9. 会長の時間 |
| 4. 「四つのテスト」唱和 | 10. 幹事報告 |
| 5. 来訪者紹介 | 11. 委員会報告 |
| 6. 米山功労者表彰 | 12. 卓話「大川美術館の最近の企画展を中心に」
大川美術館 学芸員 小此木美代子 様 |
| 第4回マルチブル 竹内 靖博君
第1回 赤松 隆君 | 13. 点鐘 |

ようこそビジター

〈卓話者〉 大川美術館 学芸員 小此木美代子 様

米山功労者表彰

第4回マルチブル
竹内 靖博君



結婚祝

日野 昇君 43年
奥澤 公慶君 38年
松島 宏明君 22年
本田雄一郎君 21年
肥塚 俊成君 16年



誕生日祝

矢野 昭君 78歳
川村 隆君 59歳
山崎 達也君 53歳
柳 明彦君 51歳
山崎 克彦君 50歳
小倉 康宏君 45歳



会長の時間

今日から6月で衣替えと言うことになります。この所うつとうしい雨空が続いてましたが、今日は天気も良く青空が広がりますが嬉しい気持ちになります。また、いろいろ騒がれている「新型インフルエンザ」もとりあえず落ち着いてきたようです。

ロータリーは、6月が年度末と言うことで今月はいろいろな会合が開かれると思いますのでご出席の程よろしくお願ひします。昨日は松倉年度最後と思いますが「識字率向上セミナー」が伊勢崎で開催されました。国際奉仕委員長の竹内君と2人で出席してきました。現在世界中で「読み書きの出来ない人(15歳以上)」は5人に1人ということです。出来ない事によるデメリットは非常に大きな問題で、これからロータリーでの今後の対応等が午後はシンポジウム形式で話しがありました。きめ細かい対応が今後の問題かと思いました。

今日の卓話は、桐生の誇る大川美術館について小此木美代子さまからお話し頂けますのでよろしくお願ひします。

幹事報告

○ 桐生南、桐生西、桐生中央、桐生赤城の各RCより
週報到着。

例会場 桐生俱楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM
ホームページ <http://www.kiryu-rc.org> メール info@kiryu-rc.org

- 本日例会終了後、定例理事会を開催致しますので、関係役員の方は出席お願い致します。
- 第2780地区副幹事長谷川平(足柄RC)より過日送付した月桂樹の写真のお礼と、表紙に写真掲載されましたガバナー月信をいただきました。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成21年6月1日)：総員66名・出席47名
平成21年5月18日例会修正出席率：62.0%

ニコニコボックス

山口正夫君・村田勝俊君…本日の卓話に大川美術館学芸員 小此木美代子さんをお迎えして／八木橋祥介君…本日カンパイの音頭を取らして頂きますので／蓮直孝君・松島宏明君・森 末廣君・本田雄一郎君…結婚祝／矢野 昭君・蓮 直孝君・川村 隆君・柳 明彦君…誕生祝／竹内康雄君・前原正一君・養田 隆君・岡部信一郎君・蓮 直孝君・森 末廣君・中村 純君・山口和男君・水越稔幸君…写真を戴きました。

卓話



「大川美術館の最近の企画展を中心」

大川美術館 学芸員
小此木美代子 様

大川美術館概要

- ・財団法人大川美術館は、桐生市出身の大川栄二が約40年にわたって収集した日本・海外の作家のコレクションを中心に、市の支援を得て、平成元年に市内を一望できる水道山の中腹に開館いたしました。
- ・日本の美術史に大きな足跡を残す松本竣介(1912~48年)・野田英夫(1908~39年)の日本最大のコレクションと、二人を軸に、彼らと人間的なつながりのあった画家の作品を中心としています(饗光、麻生三郎、国吉康雄、鶴岡政男、中村彝、難波田龍起、舟越保武、山口長男、脇田和、等)。更に竣介と野田に強い影響を与えたピカソ、ミロ、ルオー、ベン・シャーンらに代表される海外作品、清水登之の滞欧デッサン300点、日本の抽象画のパイオニア難波田龍起と二人の子供の作品群など、独自のコレクションを誇ります。
- ・当館は「絵は人格」であると考えて、その「人脈」をたどるユニークな展示をこれらのコレクションの中から試み常設しています(年4回入替)。特に竣介については「松本竣介記念室」を開設し、油彩からデッサン、カット、資料までを展示しています。また近代日本美術の流れを鳥瞰できるコーナーもあり、明治(浅井忠、青木繁、藤島武二、等)から大正(熊谷守一、古賀春江、村山槐多、等)、昭和(南城一夫、三岸節子、山口薰、等)、そして日本の抽象絵画(荒川修作、磯辺行久、菅井汲、等)までの作品を展示しています。更に年4回の企画展も常時開催しています。
- ・各展示室にはソファーを配置するなどの工夫で、自宅で絵を見ているような、暖かい雰囲気でゆっくり過ごせる空間を目指しています。数々の名画と共に、緑豊かな水道山の四季折々の変化を楽しむことができます。

展覧会概要)「石内都 上州の風にのって 1976/2008」
石内都(いしうち・みやこ、1947年)は、群馬県桐生市に生まれ6歳より横須賀に育ちました。1979年、女

性初の木村伊兵衛賞受賞をはじめ、2005年にヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表となり、亡き母の遺品を撮影したシリーズ「Mother's」を発表するなど、現代日本の写真界の第一線を走り続けてきました。昨年は、被爆資料を撮影した「ひろしま」シリーズに挑み、被爆資料という枠から解き放ち新たな命を与え再びこの世に送り出しました。本年、この「ひろしま」が評価され、第50回毎日芸術賞を受賞しました。本展では、国際的に活躍を続ける石内都の出生の地である桐生において、桐生を撮影した最初期の作品群と、それに加え最新作を展観しています。

本展の主な作品は、グループ展のみの発表で、長年アトリエに秘蔵されてきたものです。「風景」からはじまり、壁や床や柱、身体、手、足、皮膚、爪、そして傷へとつながってきた石内のまなざしは、事実の表層を捉えつつ深化し、豊かなイメージの層を印画紙に定着しつづけてきました。本展ではそのまなざしの源泉に注目すると同時に、石内の創作の行方について思いを馳せようとするものです。

代表作『絶唱・横須賀ストーリー』(1976-77年)の発表に先立つ1976年のグループ展「写真効果・5」に出品した『はるかなる間』では、桐生を歩き倉庫群やぬかるんだ冬の地面、畦道や空、川べりなどを次々と撮影しています。『連夜の街』(1978-79年)を撮り終えて後の1982年、石内は桐生、阿佐美を再び訪れ、ひたすら山や川、空を撮影した『上州』シリーズを取り組みました。本展ではこの最初期の作品群とともにヴァインテージプリントで展観します。さらに『錦桜橋』シリーズでは、桐生の渡良瀬川に架かる橋「錦桜橋」が2002年に架け替え工事される直前の姿をとらえ、石内の記憶の源を形成したと思われる51年前の風景の存在を凝視しています。一方、最新作の写真集『One Days』は、石内のごく私的な体験に寄り添う形で撮影されてきた光景であり、それぞれの物語がみずみずしく色彩に満ちた世界です。これまで白と黒の粒子を行き来しその表出への憧れのなかから写真と対峙してきたという石内の新たな展開を間見ることができるでしょう。

大川美術館としては、はじめての写真展。現存の作家をリアルタイムで紹介する展観となった。石内都展を通じて捉えなおす桐生の風景。あるいは大川美術館の展示室風景。桐生から多方面へ発信してゆける物事を大川美術館としても考えてゆきたいと思います。

・石内都略歴 + α

1947年桐生生まれ。現在62歳。本名は藤倉陽子。6歳で家族とともに桐生を離れ横須賀へ。現在は東京在住。昨年から本年にかけて本展を通じて、桐生をたびたび訪れている。石内都は母の結婚前の名前。写真家・石内都は1970年代後半より活動をはじめ、国内外の展覧会出品や写真集の刊行など約30年のキャリアを持つ。2008年には広島市現代美術館、目黒区美術館、チェコ、オランダ、フランス、イギリスで巡回展を開催。2009年に出生の地群馬で2つの個展。60歳を越えて新しいシリーズに次々にチャレンジしている。現代を代表する作家の一人であり、今後の展開がさらに期待される。

＊お知らせ＊

【次回例会予告】6月15日(月)卓話

・前原 勝良君 「遠くへ行こう」